

ビジュアル・ナラティブを用いた言語教育実践の考察

— 三項関係による語りの分析から —

水戸 貴久¹

要旨

本研究では、日本語学習者の語りの分析を通して、ビジュアル・ナラティブを用いた言語教育について考察する。本研究では、7名の日本語学習者に対して行った自己について語る教室活動において、語り手と聞き手のみによる二項関係の語り、語り手と聞き手そしてビジュアル・ナラティブを媒介にした三項関係による語りを比較した。分析の結果、二項関係の語りでは語り手のプロフィールが順番に語られるのに対し、三項関係の語りでは経験や価値観が過去、現在、未来と結びつきながら語られることが多かった。加えて、語り手のビジュアル・ナラティブに触発されて聞き手が自己について語る場面が見られ、語りの共同生成が行われていることが分かった。本研究の結果から、ビジュアル・ナラティブを媒介することによって、語り手と聞き手相互の発話が促されること、ビジュアル・ナラティブを互いに眺める横並びの位置関係を作ることによって語りが共同生成されやすくなることなど、言語教育実践への応用可能性が示唆された。

【キーワード】 ビジュアル・ナラティブ、三項関係、語りの共同生成、対話の活動

1. 研究の背景

本研究は、語り手と聞き手、そして語り手が描いたイメージ画を介した「三項関係」（やまだ, 2021）を留学生に対する日本語教育において応用し、そこに立ち現れる語り手と、イメージ画を介さない語り手と聞き手のみの二項関係の語りとを分析し、言語教育におけるビジュアル・ナラティブの応用可能性を考察するものである。ビジュアル・ナラティブとは、視覚イメージによって語ること、あるいは視覚イメージとことば⁽¹⁾によって語る行為と定義され、言語によって構成される時間構造や概念枠組みを超えてイメージを飛躍させ、感性や感情の伝達を容易にし、異文化コミュニケーションや臨床コミュニケーションに威力を発揮するという（やまだ, 2019）。後述するように、近年、言語教育においてもビジュアル・ナラティブを用いた実践及び研究が行われている。本研究では、日本語学習者の自己についての二項関係の語りと三項関係の語りとを比較し、ビジュアル・ナラティブを用いた言語教育実践の可能性について議論する。

2. 先行研究

2-1 ナラティブ的な思考様式におけるビジュアル・モード

人の思考様式について Bruner (1986) は、出来事間の因果関係の体系化を志向する「論理－科学的な思考様式 (paradigmatic mode)」と、文脈の中で意味づけを行う「ナラティブ的な思考様式 (narrative mode)」の2つの思考様式があることを述べている。私達は常にこの2つのモードを使い分け、組み合わせながら様々なことを語っている（野口, 2009）。しかしながら、我々が生活の中で出会う出来事の中には、言語を介しての表現が困難な出来事というものがあるから存在し得る（横山, 2019）。ブルーナー (2004) によれば、「ナラティブ的な思考様式」においては言葉だけが用いられるのではなく、行為によるもの、イメージによるもの、シンボル体系の構成によるものの3つの思考様式があるという。その中でも「世界を処理する行動様式の一つを喚起する最も強力なテクニックは、描写によるものではないかと思う」（ブルーナー, 2004: 217）と述べ、描写による思考及び表象様式の有効性を説いている。言語による意味の表象から図像による意味の表象への転回を、やまだ (2019) は「ビジュアル・ターン（図像的転回）」と呼び、図像の持つナラティブは言語によって構成される時間構造や概念枠組みを超えてイメージを飛躍させ、感性や感情の伝達を容易

¹ 立命館アジア太平洋大学 (APU) 言語教育センター 嘱託講師

Email: tmito@apu.ac.jp

にし、異文化コミュニケーションに威力を発揮すると述べている（やまだ、前掲）。横山・関山（2020）が述べるように、ビジュアルのモードを人々が経験や実践を意味づける手段に持ち込むことで、言語を主たる媒体とするモードのみによっては創出され得なかった新たな意味の地平が拓かれる可能性については一考する価値があると言える。

このようなビジュアル・モードの思考・表象様式であるビジュアル・ナラティブは、言葉による語りのように時系列に並べられたナラティブとは異なり、空間配置によるナラティブである。やまだ（2019）は、ビジュアル・ナラティブは、曼荼羅などのように複数の自己や異なる時間を同じ空間に共存させることができることから、過去も現在も未来も同時共存した世界を見ることができ、一方向に流れると考えられてきた時間概念を変革すると述べる。また、言葉による語りでは聞き手が時間順序を無視してナラティブをコントロールすることが難しい一方、ビジュアル・ナラティブでは、観客の自由度が大きく、一枚の絵をどのようにも見ることができるといえる。このように、ビジュアルをナラティブ論の枠組みで捉え、ビジュアルのモードをBruner（1986）の「ナラティブ的な思考様式（narrative mode）」に位置づけることにより、意味はビジュアルを用いて思考され、ビジュアルを通して語られ、そしてそれはビジュアルを通して他者に理解され、言葉とは異なる意味世界を開いていくと考えられる。

2-2 ビジュアル・ナラティブを用いた言語教育研究

近年、言語教育においてナラティブを用いた様々な実践が行われている（北出他、2021）。例えば、矢部（2021）は、日本へ移住してきた人々の経験や思いなどを物語として、写真と移住者自身のナレーションを組み合わせてスライド形式の短い映像作品を作るデジタル・ストーリーテリングの実践について報告している。矢部（前掲）の実践では、映像作品として他者に自身の経験を語り、完成した作品を地域のコミュニティにおいて上映することによって、地域の人々との対話を生み出し、移住者の理解を促す活動を行っている。ナラティブを用いた言語教育が行われる中で、ビジュアル・ナラティブを用いた言語教育研究も増えてきている。例えば、鈴木（2021）は英語教員養成の授業において絵やコラージュ、テキストをまとめたZineと呼ばれる冊子を作成する実践について分析しており、受講生の感想から、スピーキングやライティングへの効果を述べている。その要因として、Zineを作成する過程において、受講生自身が自由に作り上げることができることによるモチベーションや主体性の向上を挙げている。一方で、ビジュアル・ナラティブは言語学習者・使用者を理解するためにも用いられている。Chik（2019）は、オーストラリアに移住してきた移民にビジュアル・ナラティブを描いてもらい、複言語使用者として生きる彼らの葛藤や経験、過去と現在のつながりなどを分析している。Umino & Benson（2019）は、日本で学ぶ留学生が撮影した写真をナラティブ・インクワイアリー⁽²⁾によって分析し、日本で学ぶ留学生の実践コミュニティにおけるアイデンティティの変容を調査している。松崎他（2019）は、英語、韓国語、日本語を学んでいるそれぞれの学習者が、学んでいる言語とその言語の学習に対してどのようなイメージを持っているのかを学習者が描くイメージ画から分析している。イメージ画の分析から、絵は言葉による説明よりも感性に訴えること、言葉では語りにくいネガティブな考えを表現することも可能であることを指摘している。また、水戸他（2020）の研究では、学習者が外国語学習をどのように意味づけているのかをビジュアル・データと言葉による記述データにより取り出し、両者の表現がどのように異なるのか分析している。水戸他（前掲）では、言葉による記述データは、具体性や前後の文脈が表現される、社会言説の影響が見られる、感情が論理的に説明される、複数の現象が表現されるという特徴があるのに対し、ビジュアル・データは、表現の抽象度が高い、自己が中心に表現される、表情や色調により感情が表現される、一つの現象について深く表現されるという特徴が現れている。

3. 本研究の目的

3-1 本研究の立場

以上のような研究から着想を得、筆者はビジュアル・ナラティブを用いた対話の活動を言語教育に応用で

きないかと考えた。インタビューに代表されるような語り手（図1のA）と聞き手（図1のB）のみの二項関係では、互いが向かい合い「対話する関係」になる（図1）。「対話する関係」では、挨拶のような儀式的なことばの交換や応答、情報交換、また相手の気持ちを受容する肯定的な相槌に近い会話が行われやすい。このような対話では、相手のことばを受けとめてから自己のことばを発しないとコミュニケーションを成立させることが難しい。

一方、語り手と聞き手の間にビジュアル・ナラティブを媒介すると、語り手と聞き手は横並びのコミュニケーションとなる（図2）。やまだ（2021）はこれを「三項関係」と呼んでいる。この語り手（図2のA）、聞き手（図2のB）、ビジュアル（図2のC）という三項関係では、語り手と聞き手が同じものを見る「並ぶ関係」（やまだ，2021）になる。やまだ（前掲）によれば、並ぶ関係では互いに傍らに寄り添い「語り合う関係」になり、媒介物を一緒に眺めるという作業を共にを行いながら語り合うことで、心がほぐれて自然に語り合いが始まり、意味世界が共同生成されるという。やまだ（2004）はこのように生まれる語りを「共存的語り (coexistential narrative)」と呼び、その特徴は、類似のことばを互いに少しずつ変化させながら連結させる語りであり、ことばが相互に重なり合って韻律的リズムを作り、自己と他者が主体と客体の関係にならず、共に主体的になって語りの共同生成が行われることを述べている。本研究では、このような特徴を生かし、留学生に対する日本語教育において、ビジュアル・ナラティブを用いた「三項関係」（やまだ，2021）を取り入れた実践を行った。

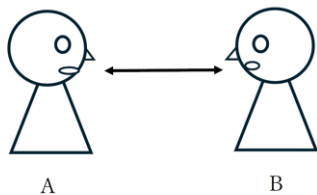


図1 二項関係 やまだ（2021）をもとに筆者作成

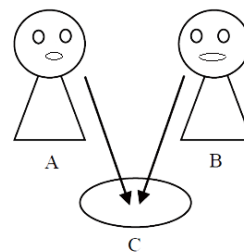


図2 三項関係 やまだ（2021）をもとに筆者作成

3-2 本研究のリサーチクエスチョン

本研究のリサーチクエスチョンは次の2つである。

- ①学習者同士の二項関係の語り及びビジュアル・ナラティブを媒介にした三項関係の語りにはどのような特徴が見られるか。
- ②ビジュアル・ナラティブを媒介にした三項関係をどのように言語教育実践に活かせるか。

4章では本研究の方法について述べ、5章以降分析結果を提示しながら上記のリサーチクエスチョンに答えていく。

4. 研究方法

4-1 調査概要

本研究は、大学における留学生7名に対する週1回、全15回の日本語教育の授業において実施した。受講生7名のうち6名は介護を学ぶ学科に所属しながら研究当時主に日本語を学んでおり、1名は食物に関して学ぶ学科に所属し、日本語と栄養学、調理学を学んでいた。受講生は皆、日本語能力試験N3に合格しており、N2を受験するレベルの日本語能力を有している。

この授業では、全15回のうち4回を「各国の若者の自己評価」をテーマにしており、文章を読み、関連語彙を学び、文書の内容について意見交換などを行っている。本調査は同テーマの最後の2回の授業を利用して行った自分自身について話す活動において実施した。1回目の授業では、まず任意で2人組のグループ（一部3人組）を作ってもらい、教師は「グループの人と自分について話してみましょう。」と語りかけ、グルー

ブ活動を行ってもらった（【調査1】）。

翌週2回目の授業では、はじめに教師は学習者に「「私」について絵を描いてください。」と語りかけ、絵を描いてもらった。その際、各自にA4サイズの白紙と12色の色鉛筆を配付し、使用は任意とした。絵の作成は授業時間の都合上20分間とした。絵の作成後、前の週と同じグループになってもらい、「グループの人と絵を見ながら話してください。」と語りかけ、グループ活動を行ってもらった。グループ活動では、やまだ（2021）の「三項関係」を取り入れ、語り手と聞き手が横並びの位置関係になり、語り手が描いた絵を互いに見ながら語るようにした（【調査2】）。両活動とも時間制限は設けなかったが、会話は自然と終わっていった。

【調査1】に入る前に、学習者に対して本研究の内容を口頭及び書面にて説明した。また、研究結果を発表や論文等で公表してもよいか、口頭及び書面にて説明し、全員から署名をもらい承諾を得た。【調査1】と【調査2】のグループ活動での学習者同士の会話はICレコーダーで録音し、後日トランスクリプト化した。また、【調査2】の際に学習者が描いた絵は授業後に回収し、コピーを取った後原本を返却した。

4-2 分析方法

会話データのトランスクリプト化に際しては分析に支障が出ない範囲において固有名詞を仮称にし、イメージ画の個人情報が描かれている部分は削除するなどして個人が特定できないようにした。分析に際しては、トランスクリプトを読み込み、学習者が描いた絵と共に繰り返し眺めながら自身について語られている箇所にマークし、【調査1】及び【調査2】においてどのようなナラティブが生成されたのかを比較した。

5. 分析結果

本章では紙幅の都合上、本研究の目的に即して、特徴的な語りが見られたグループの分析結果を取り上げる。分析の焦点となる語りには下線を引き、↑は上昇イントネーション、（ ）は相槌、[]は中略や笑いなど、トランスクリプトの補足を表している。

5-1 【調査1】二項関係の語り

本節では二項関係の語りの例として、グループ1の語りの分析結果について述べる。グループ1のメンバーであるエーさんとレイさんは20代半ばのミャンマー出身の女性、マリーさんは20代前半のインドネシア出身の女性である⁽³⁾。エーさんとレイさんは介護の勉強をするために来日し、研究当時主に日本語を学んでいた。将来日本で介護福祉士になることを希望し、学業と並行して介護福祉施設でアルバイトをしていた。マリーさんは来日後に日本語学校で日本語を学んだ後、栄養と調理の勉強をするために大学に入学し、研究当時日本語を主に学びながら、栄養と調理の勉強をしていた。

5-1-1 二項関係の語りの例

本節では、グループ1に見られた特徴的な二項関係の語りを引用していく。

【エーさんのプロフィール】

- 1 エー まず私自己紹介先にしますね 順番に 私先にします 私の名前はエーと申します ミャンマーから来ました 今〇〇大学で〇〇学科で勉強している（マリー：うんうん）留学生として はい 以上です 私は 私と あー 責任感がある人 人です それ人です あとーんー [少し笑いながら] ファッションセンスもあると思います ふふふ あとは 他人への心配りのタイプです（マリー：んー）特技ー うん 特技もあります あとは感受性もあると思います
- 2 レイ [独り言のようにつぶやいて] 感受性
- 3 エー はい [ミャンマー語で説明] *** あとはー 性格の良さも ちょっと

- 4 マリー しかたない↑
 5 エー いえ 性格の良さ
 6 マリー あー性格の良さ
 7 エー うん も あると思います [少し笑い] へへ 以上です
 8 マリー あなたの好きなことは何ですか↑
 9 エー 私は 好きなことは 私は料理作るのが好きです いつでも 料理作らなれば楽しいです

ターン1と3では、エーさんの名前、出身地、所属、そして責任感があり、ファッションセンスがあり、他人への心配りができ、感受性があり、性格がよいという自身の特徴について述べている。ターン8ではマリーさんがエーさんの好きなことについて質問しており、ターン9ではエーさんがマリーさんの質問に対して短く答えている。

【マリーさんのプロフィール】

- 14 マリー [中略] 私はマリーです あなたたちは知っている あー 今は二十歳です あーじゃない
 今年は21歳です 今年は21歳 インドネシアから来ました んー 私の好きなことは料理です
 えっとー 私がどんな人か 私も よく分からないけど でも 私も他の人へ心配りの人
 だと思います なぜならば私はあー あー 困った人に↑手伝うことが好き↑と
 思います [笑い] うふふ (レイ:[笑い] ふふふ いいですね) 好きと思います あの
 他の人が悲しい時 (レイ:慰めて) あー私が アドバイスするとかサポートするのが私は
 好きです (レイ:んー いいなー 心優しい [少し笑い] ふふふ) いえいえいえいえ
 15 エー モテることがあるですか↑ (ん↑) モテること
 16 マリー モテること↑いいえ (エー:いいえ [少し笑いながら] ない↑) わからない [少し笑い
 ながら] 私分らない それは私の良いことと思います あの一悪い 私の悪いことのは (レ
 イ:ん) 何がいいかな 私の悪いのことは あー [沈黙 6.0]
 17 エー 特にない↑ [少し笑い ははは]
 18 レイ あるけれど
 19 マリー 諦めるっぽい 私
 20 エー あー
 21 マリー ほんと そして他の 何↑他の人が言われることが 信じてます
 22 エー あー 信じすぎ
 23 マリー 例えば 例えば あなたはこれねそれねこれねと言われても 私は信じてしまいます
 うん 時々自分より他の人の方が 私 信じてます 他の あー 自分より他の人の方が
 何か言われても 私は信じてます そのことあると思います

ターン14では、マリーさんの名前、年齢、出身地、好きなこと、そして他の人への心配り、困った人を手伝うことや他の人が悲しい時にアドバイスやサポートすることが好きであることが語られている。ターン16から23では、マリーさんの悪いこととして、諦めやすいことや他の人に言われたことをすぐに信じてしまうという自身の短所について述べている。

5-1-2 グループ1の二項関係の語りの特徴

紙幅の都合上載せることができなかったが、エーさんとマリーさんの語り以外にも、マリーさんの語りがひと段落した後にレイさんが自分自身について語る場面も見られた。グループ1の二項関係の語りの構成をまとめると次のようになる。

- ① 各自の名前、出身、年齢、所属、性格について
- ② エーさんとマリーさんの好きなこと、嫌いなことについて
- ③ レイさんが頑張りたいことについて
- ④ エーさんが頑張れないことについて

グループ1の二項関係の語りでは、はじめに個人のプロフィールが語られ、お互いの情報の交換が行われている。また、エーさんとマリーさんの好きなことや嫌いなこと、またレイさんとエーさんの頑張りたいこと、頑張れないことについて語られている。このようにグループ1の二項関係の語りでは、主に現在の自分自身のことについて語られていることが分かる。語りの形式に着目すると、ターン1でエーさんが自身のプロフィールを語った後にマリーさんがターン14で自身のプロフィールを語り始めるというように、1人の語り手が話した後に次の語り手が順番に語る主体と客体の分離が見られる。また、ターン8ではマリーさんがエーさんに質問しているが、ターン9でエーさんはその質問に対して端的に答えるのみにとどまっており、【調査1】からは二項関係の語りにおいて、語りの発展性が見られないことが分かる。

5-2 【調査2】三項関係の語り

5-2-1 グループ1のビジュアル・ナラティブ

本節では三項関係の語りの例として、グループ1の語りの分析結果について述べる。【調査2】において、グループ1では図3、図4、図5のような絵が描かれた。



図3 エーさんが描いたイメージ画

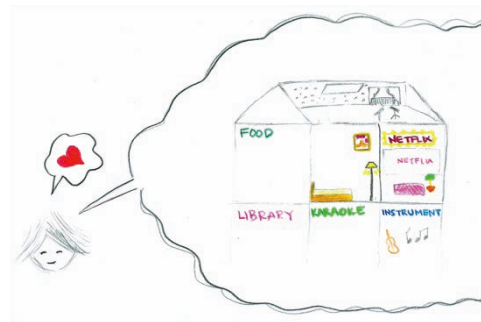


図4 マリーさんが描いたイメージ画



図5 レイさんが描いたイメージ画

図3のエーさんが自分自身について描いたイメージ画には、車いすに乗った女性とその車いすを押す女性の姿が描かれている。2人は共に笑顔であり、車いすを押す女性は「今日は天気がいいから散歩しましょうね。」と車いすに乗った女性に語りかけ、車いすに乗った女性は「はい、お願いします…」と答えている様子が描かれている。

図4のマリーさんが自分自身について描いたイメージ画には、左側に笑顔の女性の顔とハートが描かれている。女性から出ている吹き出しには2階建ての家が描かれ、1階はLIBRARY、KARAOKE、INSTRUMENTと三つ部屋があり、2階はFOOD、NETFLIXの部屋、その間にベッドと絵と照明が置かれた部屋が描かれている。その上の屋根裏部屋には窓とカーテンと望遠鏡のようなものが描かれている。

図5のレイさんが自分自身について描いたイメージ画には、上部に山、線路と電車そして駅のような建物、その下には道路と走る車、下部には波のような模様が描かれている。絵の一番上には「自分について絵を描いてみましょう！ I love to live in Countryside! 将来にも自然が多い所で住みたいです。」と書かれている。

5-2-2 グループ1の三項関係の語りの例

次のターン31からターン59はエーさんが描いた絵（図3）を眺めながら行われた一連の語りである。

【エーさんの現在の仕事と将来の姿】

- 31 マリー [エーさんの絵を見ながら] あなたは↑
- 32 エー これは私の毎日です 毎日の仕事です 将来にも私はこれ 仕事について あー つづいて
今も今も 介護について勉強しているので将来も私の姿はそうにといい感じで このよ
うな描きました
- 33 マリー んー あの一 [沈黙 4.0] 何 他の人のお世話が好きですね↑ 他の人の世話
- 34 エー うん 世話するのが好き
- 35 マリー 世話をするのが好きですね
- 36 エー うん

上記に引用したターン31の前までは、レイさんのイメージ画（図5）を眺めながら、レイさんが今住んでいる町のように、これからも山や海のある自然豊かな町に住み続けたいという語りが行われていた。レイさんの語りがひと段落した後、ターン31ではマリーさんがエーさんの絵を見ながら「あなたは↑」と質問している。3人でエーさんの絵を眺めながらターン32でエーさんはこの絵が自分の毎日行っている介護の仕事であり、また将来の姿でもあることを説明している。続けてターン33でマリーさんが「他の人のお世話が好きですね↑」と質問し、ターン34でエーさんは「うん 世話するのが好き」と答えている。

【マリーさんもお世話をすることに興味がある】

- 37 マリー [感動したように] 優しいー
- 38 エー [少し笑い] ははは
- 39 マリー 優しいです おばあさんと 私もおの一 何↑ あー 障害者↑お世話するのが 私興味
がある
- 40 エー んー
- 41 マリー 高校生の時私 あの一 お母さんの学校に↑ お母さんの学校に来て あのお母さんは先
生だから 障害者の先生だから (エー：んー) 私1日 そこで あの一先生として教える
とても楽しいです (エー：んー) 私

ターン32や34でエーさんの語りを聞いたマリーさんは、ターン39で「障害者↑お世話するのが 私も興味がある」と自身も介護について興味があることを語っている。ターン41では、母親が障害者の学校の先生であったこと、そして高校生の時にマリーさんが母の学校で先生として教え、それが「とても楽しい」ものであったという自身の経験を語っている。

【エーさんの介護に対する価値観・意義】

- 42 エー 私は さっきはミャンマーで 日本に来る前には介護を勉強すると 初めて来た時は介護はおじいさんおばあさんの（レイ：そうそうそうそう）世話をすることだと思いけど（レイ：そうそうそうそう）これはそういうことじゃなくて 自分の人生なので誰も生活するでしょ↑ 自分が他の人の日常会話の生活を手伝うことのできる人なので 私は 大好きです
- 43 マリー んー
- 44 エー [中略] 誰も年をとった時はおじいさんおばあさんになったでしょ↑ その時は自分の日常生活を一人でできない時 私が手伝うすることのできるの楽しいです
- 45 マリー んー楽しいね 私 習いたい その そのこと
- 46 エー 誰でも 誰でも このお世話 世話するの人は 一般より あー 簡単じゃない ちょ んー ちょっとー 多くの人の生活を手伝うことは支えることなので 誰でも できないです 心を込めて 朝 食事介助とか あとー 寝たばかりの状況の [おそらく「寝たきり」] という意味] おじいさんおばあさんおるでしょ↑ その時はオムツ交換とか 爪切りとか 色々するのが あー
- 47 マリー ありがと
- 48 エー あー 普通の 状況ではできないです 心を込めて あー してくれたところなので
- 49 マリー [感動したように] 温かい ほんとに温かい人

ターン42では、まず「初めて来た時は介護はおじいさんおばあさんの 世話をすることだと思いけど」とミャンマーにいた時や来日直後の介護に対するエーさんの考え方が語られた。しかし、「これはそういうことじゃなくて」と介護に対する価値観の変化が語られる。エーさんの介護に対する新たな価値観とは、ターン42「自分の人生なので誰も生活するでしょ↑ 自分が他の人の日常会話の生活を手伝うこと」、ターン44「誰も年をとった時はおじいさんおばあさんになったでしょ↑ その時は自分の日常生活を一人でできない時 私が手伝うすることのできるの楽しいです」というように、エーさんの考える介護はただ「おじいさんおばあさんの 世話をすること」ではなく、お世話をする人の人生を考えながら日常生活を手伝うことであり、それに携われることが「楽しい」という価値観である。これは前節のターン41のマリーさんの語りを受けてのエーさんの価値観の表出であると考えられる。

このようなエーさんの介護に対する価値観を聞き、マリーさんはさらにターン45で「楽しいね 私 習いたい その そのこと」と語る。この語りを受けてエーさんはターン46で「誰でも このお世話 世話するの人は 一般より あー 簡単じゃない ちょ んー ちょっとー 多くの人の生活を手伝うことは支えることなので 誰でも できないです」と、マリーさんの考え方に対して「一般より 簡単じゃない」「誰でも できないです」と自身の価値観とのずれを語る。そして「心を込めて 朝 食事介助とか あとー 寝たばかりの状況の [おそらく「寝たきり」] という意味] おじいさんおばあさんおるでしょ↑ その時はオムツ交換とか 爪切りとか 色々するのが」や、ターン48「普通の 状況ではできないです 心を込めて あー してくれたところなので」と、介護は「心を込めて」行うことであるという自身の介護に対する価値観の語りを深めている。

【レイさんの介護の経験・価値観】

- 50 エー 大事です
- 51 レイ 介護の仕事は日常の仕事じゃなくて 私も今も時々 がかり がっかり↑するのこともある
しー 悲しいのこともある [不明] *** [こわる と聞こえる] その時 利用者さんを
あーこのことしない↑なる ならないように しんしんを あげ↑あげ↑
- 52 エー [日本語で助け舟を出すように] 応援します
- 53 レイ 応援することとか このことも必要です 私の 生活じゃなくて [不明] ***するとか
病気をするとか 悲しいのとか これに ならないように がっかりしないように
- 54 マリー んー
- 55 レイ することも入っています
- 56 エー 人は生きている間に あー幸せに あー [沈黙 3.0] 生きるように 私たちは あー 支え
ること手伝うことです [少し笑い] ふふ
- 57 マリー んー [沈黙 3.0] いいねー 私も 習いたい
- 58 レイ [不明] [フェイション フェイション と聞こえる] のことも手伝うこと
- 59 エー 日常生活も手伝うこと

ターン44から48のエーさんの介護に対する価値観を聞き、レイさんが語り始める。ターン51では、「介護の仕事は日常の仕事じゃなくて 私も今も時々 がかり がっかり↑するのこともあるしー 悲しいのこともある」とレイさんは自身の経験と感情を語る。そして、エーさんの助け舟も借りながら、ターン51「その時 利用者さんを あーこのことしない↑なる ならないように」、ターン53「応援することとか このことも必要です 私の 生活じゃなくて [不明] ***するとか 病気をするとか 悲しいのとか これに ならないように がっかりしないように」と、自身の利用者への向き合い方を語っている。また、ここでもエーさんはレイさんの語りに重ねながら、ターン56「人は生きている間に あー幸せに あー [沈黙 3.0] 生きるように 私たちは あー 支えること手伝うことです」、ターン58「日常生活も手伝うこと」と介護に対する自身の価値観を語っている。

5-2-3 グループ1の三項関係の語りの特徴

エーさんの絵を媒介にした三項関係の語りの構成をまとめると次のようになる。

- ① エーさんの現在と将来の介護士としての姿
- ② マリーさんの高校時代の経験
- ③ エーさんの介護に対する価値観
- ④ レイさんの介護の経験と価値観

エーさんの絵を媒介にした三項関係の語りでは、まずエーさんが描いたイメージ画の説明が行われた。それは、現在と将来の介護士としてのエーさん自身の姿である。次に、エーさんの語りを受けて、マリーさんが自身の経験を語り始める。しかし、エーさんとマリーさんの考え方のずれから、エーさんは自身の介護の意義と価値観をさらに深く語っている。このようなエーさんの語りを受けて、レイさんが自身の介護の経験と感情、そして利用者への向き合い方を語っている。グループ1の三項関係の語りでは、このように現在のことだけではなく未来の姿や過去の経験、また、価値観や感情について語られている。

語りの形式に着目すると、エーさんの語りからマリーさんの語りが生まれ（ターン39から41）、またマリーさんの語りからエーさんの価値観が深く語られ（ターン45から48）、さらにエーさんの語りからレイさんの

経験が語られる（ターン51から59）、というように、ここではエーさんの絵を見ているのにもかかわらず、語り手と聞き手の境界が曖昧になり、相互が語りの主体となる「かさねの語り」（やまだ，2004）が行われており、語りが語りを生む「語りの共同生成」（やまだ，前掲）が行われていることが分かる。また、そのような「語りの共同生成」により、語り手の価値観や感情が深く語られる「語りの深層化」と呼べるものが行われていることが明らかになった。

5-2-4 グループ2のビジュアル・ナラティブ

本項では三項関係の語りのもう1つの例として、グループ2の語りの分析結果について述べる。グループ2のメンバーであるジョーさんは20代前半、ウーさんは30代前半の共にミャンマー出身の男性である。2人はエーさんとレイさんと同じ学科に所属しており、介護の勉強をするために来日し、研究当時主に日本語を学んでいた。将来は日本で介護福祉士になることを希望しており、学業と並行して介護福祉施設でアルバイトをしていた。【調査2】では、ジョーさんは図6、ウーさんは図7のような絵を描いた。



図6 ジョーさんが描いたイメージ画



図7 ウーさんが描いたイメージ画

図6のジョーさんが自分自身について描いたイメージ画には、ミャンマーの国旗がポケットに描かれた白い半袖の服を着、青い鞆を持ち、緑色のスカートのようなものを履いた少年のような絵が描かれている。少年の顔は笑顔である。

図7のウーさんが自分自身について描いたイメージ画には、カラフルなTシャツ、ズボンを身に着けている青年の姿が描かれている。青年は体の前で手を交差しており、顔はほのかに笑顔を浮かべ、目は遠くを見ているように見える。

5-2-5 グループ2の三項関係の語りの例

次のターン65から95はジョーさんが描いた絵（図6）を眺めながら行われた一連の語りである。ターン65の前までは、お互いに何をイメージして絵を描いたのかや、その絵から思い出される子供のころの話などが語られていた。

【2人のロンジーストーリー】

65 ウー ロンジー

66 ジョー うん そうそうそう

[中略]

- 70 ジョー 子供のころから ロンジーが好きです
[中略]
- 73 ウー ロンジー 私の子どもの時 ほとんど大体 ズボン着るだけ (んー) 勉強しました
- 74 ジョー あー
- 75 ウー ロンジー 時々 私は いまじんけれど ロンジー着るのはあんまり (あー) [少し笑いながら] 嫌です いつもいつも結ぶ
- 76 ジョー んー その人もいますね
- 77 ウー ロンジーが着るときに [少し笑いながら] 下着がいつも ふふ
- 78 ジョー んー でも 私 好きですよ ロンジーは ちゅうが中学生 高校生のころも ロンジーよく着る
- 79 ウー そうそうそう 私 高校生まで ロンジーを着ました (んー) でも大学生の時には あまりなかなか 着ない (んー) 大学生の時は 他のメンズ服も色々あるし 文化もあるし だから なかなか 着ないロンジーは ほとんどはズボンズボン
- 80 ジョー 私はー ウーさんの [不明] *** [こども と聞こえる] みたい ロンジーより ズボンが便利だ
- 81 ウー そうそう そうですそうです
- 82 ジョー その感じですね
- 83 ウー あー ズボンをくる 着るのは バイクも乗れるし どこでも歩きやすいです ロンジーをくる時に あー いつも結ぶ結ぶ それがめんどくさい
- 84 ジョー んー そうですねー めんどくさいねー [少し笑い] ふふ

ターン65では、ウーさんがジョーさんの絵を見ながら「ロンジー」とつぶやいている。「ロンジー」とはミャンマーの伝統衣装であり、ジョーさんの絵(図6)に描かれたスカートのようなものである。ターン65以降、2人のロンジーにまつわる語りが展開される。ジョーさんは「子供のころから ロンジーが好き」であり、中学生、高校生のころもロンジーをよく履いていたという。ウーさんは高校生まではロンジーを履いていたが、大学生になってからはズボンに替わり、ターン79「学生の際は 他のメンズ服も色々あるし 文化もあるし だから なかなか 着ないロンジーは ほとんどはズボンズボン」、ターン83「ズボンをくる 着るのは バイクも乗れるし どこでも歩きやすいです ロンジーをくる時に あー いつも結ぶ結ぶ それがめんどくさい」と、ロンジーを履かなくなった理由を語っている。

【ウーさんのロンジーにまつわるおじいさんの思い出と死について】

- 85 ウー でも 私 中学生 中学生 そう中学生の時に 私のおじいさんが注意されました ウーさんあなたは おと おとになるよー ロンジーを
- 86 ジョー 大人になるよ↑
- 87 ウー うん ロンジーを着れ 着れ 毎日 [少し笑いながら] 毎日 はははは
- 88 ジョー [少し笑い] はは そんな厳しいですか↑
- 89 ウー おじいさん その注意される時 その気持ちが嫌です [煩わしさを振り払うように] あー！ [沈黙 4.0] だめですよー [少し笑い] はは [沈黙 3.0] 私は おじいさん 亡くなりました 8年 8年間 9年間

90 ジョー 8 年前 ↑

91 ウー うん 8 年前 亡くなった

ターン73から続くウーさんのロンジーについての語りは、ターン85から89で、毎日おじいさんにロンジーを履くように注意されたという過去の思い出とその時の気持ちの語りへと続いている。そして、ロンジーについての思い出は、ターン89と91ではおじいさんが8年前に亡くなったという語りに変化する。

【ウーさんのおばあさんの介助の経験と今の介護の仕事について】

92 ジョー んー ね おばあさんは ↑

93 ウー あー 父の母は 私の生まれる前に亡くなった 私は見たことがない 写真だけ 父のおじいさんは(うん) はい 見たことがある 母のー 母の 父は(うん) このとおり 私が生まれる前に亡くなった おば おばあさんは今まで いき 生きています 今ー 85 歳かもしれません そういう年齢になります おばあちゃんは年が 年が取ったから 疲れ 疲れやすい 【苦しそうに息を吐く真似をしながら】 はあはあはあ 歩く時に 助かる 介助する

94 ジョー あー ウーさんは介助をしたことがある ↑

95 ウー うんうん そうそう でも私は うんちとかお世話 そのお世話 【少し笑いながら】 気持ち嫌だ (あー) うんちおしっこ出る時 【嫌そうな声で】 あー (んー 【少し笑い】 へへへ) でもそれを我慢して今 【少し笑いながら】 今仕事は我慢 我慢する ふふふ 私の今頑張ってる あ ある1つのおばあちゃん 【真似をしながら】 あー おしっこ出た それで介助した それでそれで 【ミャンマー語で】 ***約12秒間 【誰かの真似をしながら】 あー違う! 違う! 【ミャンマー語で】 ***約6秒間 手が痛い 手が 【少し笑い ははは】

ターン89と91でウーさんのおじいさんが亡くなったという語りを受け、ターン92でジョーさんは「おばあさんは↑」と質問する。ウーさんはターン93でおばあさんの年齢、疲れやすさ、そしてそのために自身がおばあさんを介助していた過去の経験を語る。ターン95では、おばあさんの介助の際、「でも私は うんちとかお世話 そのお世話【少し笑いながら】 気持ち嫌だ うんちおしっこ出る時【嫌そうな声で】 あー」と自身の過去の感情を語っている。続いて語りは現在へと戻り、「でもそれを我慢して今【少し笑いながら】 今仕事は我慢 我慢する ふふふ 私の今頑張ってる あ ある1つのおばあちゃん【真似をしながら】 あーおしっこ出た それで介助した」と、過去のおばあさんの介助の経験を現在の介護士としての自身の経験と結びつけながら語っている。

5-2-6 グループ2の三項関係の語りの特徴

前節で引用した、ジョーさんの絵を媒介にした三項関係の語りの構成をまとめると次のようになる。

- ① 2人のロンジーについての語り
- ② ウーさんのおじいさんの思い出と死について
- ③ ウーさんのおばあさんの介助の経験と今の介護の仕事について

ジョーさんの絵を媒介にした三項関係の語りでは、まずジョーさんとウーさんのそれぞれのロンジーにまつわる評価や過去の経験が語られた。そしてロンジーにまつわる語りから、ウーさんのおじいさんとの思い出が想起され、おじいさんが亡くなったことについて語られた。ウーさんのおじいさんの話を受け、ジョーさんが「おばあさんは↑」と質問し、ウーさんは過去におばあさんを介助していた経験やその時の感情を語り、それに結びつけるように現在の介護士としての経験を語り始めた。グループ2の三項関係の語りにおい

ては、ジョーさんの絵を眺めながらも、ウーさんの経験や感情が過去と現在を行き来しながら語られている。

語りの形式に着目すると、ジョーさんのロンジーについての語りからウーさんのロンジーについての語りが生まれ（ターン73から84）、ウーさんの大切な人の死へとつながり（ターン85から91）、さらにジョーさんが質問を重ねることにより、ウーさんがおばあさんを介助した過去の経験や感情、そして現在の経験や感情への語りへと変化していった（ターン93から95）。ここでもグループ1の語りと同様に、ジョーさんの絵を媒介にしながら、語り手と聞き手の境界が曖昧になり、相互が語りの主体となる「かさねの語り」（やまだ、2004）、語りが語りを生む「語りの共同生成」（やまだ、前掲）が行われていることが言えるだろう。

6. 考察

本章では、5章の分析結果を踏まえながら3章で示した2つのリサーチクエスションに答えていきたい。

6-1 二項関係と三項関係の語りの構成と形式の特徴

本稿では【調査1】と【調査2】の一部を引用したに留まったが、研究全体を通して二項関係と三項関係の語りを比較すると以下のことが明らかになった（表1）。

表1 二項関係の語りと三項関係の語りの構成と形式の特徴

語りの構成		語りの形式	
二項関係	三項関係	二項関係	三項関係
・ 個人のプロフィール ・ 好きなもの・嫌いなもの ・ 夢・目標	・ 自身の価値観 ・ 過去の経験や感情 ・ 将来について	・ 発話の順序の交代 （語り手と聞き手の発話が分離し、一方が主体となる） ・ 質問と応答 （質問に対して端的に答えるのみで、発展性に乏しい）	・ かさねの語り （語り手と聞き手相互が主体となる） ・ 語りの共同生成 （語りが語りを生んでいる） ・ 語りの深層化 （感情や価値観がより深く語られる）

二項関係では、5-1で見たように名前や年齢、出身地、性格などの個人のプロフィール、また料理や他の人を手伝うこと等、好きなものや、その反対に嫌いなもの等、概ね現在の自分自身の情報について語られていた。また、将来の夢や目標が語られることもあったが、それは現在の自分自身の考える漠然とした将来像であるようであった。語りの形式として、これらの語りは語り手と聞き手に明確に分かれながら一人ずつ順番に語られ、語りがひと段落した後に関き手から質問を受けて、語り手が端的に答えるという応答の形をとっており、語りの発展性に乏しいことが分かった。

一方、三項関係では5-2と5-3で見たように、語り手が描いたイメージ画を眺めながら、語り手も聞き手も分け隔てなく語っていた。本研究の結果からは、三項関係で語られた内容として自身の価値観、経験や感情、将来についての語りが、過去から現在、現在から未来へ、あるいは過去から未来へと時間概念を飛び越えながら語られていた。そして、語り手の絵を媒介にしながら語ることによって、いつの間にかターンが入れ替わり、語り手と聞き手の境界が曖昧になり、相互が語りの主体となる「かさねの語り」（やまだ、2004）や、一方の語りに触発されてもう一方の語りが生まれる「語りの共同生成」（やまだ、前掲）が行われていた。加えて、そのような語りの形式をとることによって、5-2のエーさんのように、感情や価値観がより深く語られること（「語りの深層化」）に繋がることも明らかになった。

6-2 ビジュアル・ナラティブを媒介にした三項関係の教育実践への応用

「自分について話してみましょう」というインストラクションにおいては、二項関係と三項関係の語りでは異なる語りが異なる語りの形式を伴って生成されることが分かった。二項関係では、名前や年齢、出身地、性格、好き嫌いなど、いわゆる教室活動における自己紹介のような語りが行われていたと言ってよいかもしれない。一方、同じテーマにもかかわらず、ビジュアル・ナラティブを媒介にした三項関係による語りでは、前節で述べたように経験や感情、価値観について、語り手と聞き手の境界のない深い対話がなされ、また語りが語りを生む「語りの共同生成」が行われていた。その他にも、筆者は本研究を通して、ビジュアル・ナラティブを用いた言語教育に、以下の2点の観点から応用可能性を見出している。

6-2-1 ナラティブをビジュアルとして外在化する効果

まず、ナラティブをビジュアルとして外在化することの効果が挙げられる。学習者はイメージ画を描きながら、絵に込めようとする意味や感情、過去の経験や未来の姿等が想起され、自身の中で同時に語られていると考える。イメージ画を描くことにより、学習者の中でことばは静かに生み出され、対話において多くの意味を含み表現されるだろう。また、ナラティブをビジュアルとして外在化することによって、自身とナラティブとの間に一定の距離を置いて眺めることが出来るため、語られにくいことも語りやすくなることもあるかもしれない。

加えて、自身のナラティブを外在化し、聞き手との間に置くことによって、目の前に見て話すソースがあるために発想が消えにくく、やり取りの道標になって話題を戻すことが出来るなど、発話時の不安が減ることも考えられる。

6-2-2 互いを知るためのマルチモダルなナラティブ

ビジュアル・ナラティブは2-1で記したように、それ自体が時間構造や概念枠組みを超えた空間配置によるナラティブとして成立している。これまで記してきたようにビジュアル・ナラティブを媒介にした三項関係を作ることによって、語りは共同的に生成され、語り手の価値観や感情が深く語られることに繋がっている。互いのナラティブを言葉で聞き、またビジュアル・ナラティブとして眺めることは、同じ空間で学ぶ学習者たちが互いを理解するマルチモダルな方法となるであろう。

ビジュアル・ナラティブは教師にとっても学習者を理解する上で重要なものとなると考えられる。学習者を一様に「言語学習者」として捉えるのではなく、ナラティブを通して様々な経験や価値観を持つひとりの人として理解することは、学習者との向き合い方を再考し、教師としての自身の在り方をも再構成することにつながるだろう。マルチモダルなナラティブはそのための手段の1つとなり得るのではないだろうか。筆者は、エーさんの描いたビジュアル・ナラティブ（図3）を眺め、教室外の彼女の仕事や未来の姿を想像することができた。さらにそれは、成り手の減少した介護人材を外国人が担うという現在の日本社会の課題にまでイメージを拡大させ、翻って目の前の日本語学習者がそれを引き受けるという現実において、教室の中で学習者と接する日本語教師としての自分には何ができるのか、という問題提起を筆者に突き付けた。

学習者がどのような経験や価値観、想いを背景に持って言語を学んでいるのか、またどのように自己を構成し、将来を見据えているのか。ビジュアル・ナラティブは読み手に対して視覚的、直感的に訴える力を持つものである。そしてそれは、教師を聞き手に据えた新たな三項関係を構成し、次の語りの共同生成へと教師を巻き込んでいくものとなるだろう。

7. おわりに

本研究の結果に示されたように、二項関係の語りと三項関係の語りでは表れるナラティブが異なるが、そのどちらがより優れているということではない。また、ビジュアル・ナラティブはその人を正確に表しているものなのか、という「正しさ」を問うことは適当ではない。ビジュアルをナラティブ論に当てはめてみた

時に何がどのように現れるのかという認識論の議論である。ことばを中立的なコミュニケーションの道具として学ぶのではなく、自身のアイデンティティと向き合うことや社会の多様性を理解すること、社会を共に創っていくためのコミュニケーションの経験を積むことなどが新しい言語教育の目的となってきた（北出他, 2021）。ことばを通じてよりよい生と社会を創っていく実践として、言語教育研究におけるビジュアル・ナラティブの更なる応用が期待される。

謝辞

本研究に快く協力してくださった7名の学習者に感謝を述べたい。本研究の実践と分析を通して、言葉には置き換えられないビジュアル・ナラティブの持つ力強さを感じ、またそれを眺めながら語り手と聞き手の境界なく多くの「声」を響き合わせ語り合う実践は、筆者に言語教育の更なる可能性を開いてくれた。ここに感謝申し上げ、謝辞としたい。

尚、本稿は2022年3月5日・6日にオンラインで行われた言語文化教育研究学会第8回年次大会での口頭発表「言語教育実践におけるビジュアル・ナラティブの応用可能性ー三項関係ナラティブモデルによって立ち現れる留学生の「自己」についての語りの分析からー」を基に、加筆と修正を行ったものである。

注

- (1) 本稿において「ことば」と記すものは、文字や音声による情報のみならず、人の思考や表現を含む広義の意味で用い、「言葉」と記すものは、文字や音声による言語情報を指している。また、先行研究に記載されたものは原文のまま用いることとする。
- (2) 「ナラティブ・インクワイアリー」とは、Clandinin & Connelly (2000) によって提唱された質的研究手法であり、フィールドワークやインタビューなど、対象者のナラティブを通して経験を理解する研究手法である。
- (3) グループ1はエーさん、レイさん、マリーさんの3名であるが、「二項関係」とは、イメージ画を媒介にしない語り手と聞き手の関係性、「三項関係」とは語り手の描いたイメージ画を媒介にした語り手と聞き手の関係性のことをいう。人数によらず、語り手と聞き手のみであれば「二項関係」、イメージ画を媒介にしているのであれば「三項関係」となる。

参考文献

- 北出慶子・嶋津百代・三代純平（2021）『ナラティブでひらく言語教育ー理論と実践』東京：新曜社。
- 鈴木栄（2021）「ビジュアル表現を媒介とした言語学習の探索ーZineを使う英語の授業を例として」『言語文化教育研究』19：255-263. <https://doi.org/10.14960/gbkkg.19.255>
- 野口裕二（2009）『ナラティブ・アプローチ』東京：勁草書房。
- ブルーナー, J. S. (2004)『教育という文化』（岡本夏木・池上貴美子・岡村佳子訳）東京：岩波書店。（原典1996）
- 松崎真日・鈴木栄・水戸貴久（2019）「外国語学習者の絵が伝えることービジュアル・ナラティブによる試行的研究」『福岡大学人文論叢』51(1)：203-240.
- 水戸貴久・鈴木栄・松崎真日（2020）「学習者の語りは表現方法によってどのように変わるかー書かれたものと描かれたものの比較を通して」『言語文化教育研究』18：204-213. <https://doi.org/10.14960/gbkkg.18.203>
- 矢部まゆみ（2021）「移住者のデジタル・ストーリーテリングー多様な人々の物語に耳を傾け分かち合う地域社会をめざして」北出慶子・嶋津百代・三代純平（編）『ナラティブでひらく言語教育ー理論と実践』127-138. 東京：新曜社。
- やまだようこ（2004）「小津安二郎の映画『東京物語』にみる共存的ナラティブー並ぶ身体・かさねの語り」

- 『質的心理学研究』 3 : 130-156. https://doi.org/10.24525/jaqp.3.1_130
- やまだようこ (2019) 「ビジュアル・ナラティブ」 サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実 (編) 『質的研究法マッピング 特徴をつかみ、活用するために』 136-142. 東京 : 新曜社.
- やまだようこ (2021) 『やまだようこ著作集第5巻 ナラティブ研究—語りの共同生成』 東京 : 新曜社.
- 横山草介 (2019) 『ブルーナーの方法』 広島 : 溪水社.
- 横山草介・関山隆一 (2020) 「保育者の実践観の変容に関するヴィジュアル・ナラティブアプローチ」 『保育学研究』 58(2-3) : 155-166. https://doi.org/10.20617/reccej.58.2-3_155
- Bruner, J. (1986) *Actual Minds, Possible Worlds*. Cambridge, MS ; London :Harvard University Press. <https://doi.org/10.4159/9780674029019>
- Clandinin, D. J., Connelly, F. M. (2000). *Narrative Inquiry: Experience and Story in Qualitative Research*. San Francisco: Jossey-Bass.
- Chik, A. (2019) Becoming and Being Multilingual in Australia. In: P. Kalaya & S. Melo-Preiefr (Eds.) *Visualising Multilingual Lives:More Than Words*, 15-32. Bristol: Multilingual Matters. <https://doi.org/10.21832/9781788922616-006>
- Umino, T., Benson, P. (2019) Study Abroad in Pictures: Photographs as Data in Life-story Research. In: P. Kalaya & S. Melo-Preiefr (Eds.) *Visualising Multilingual Lives:More Than Words*, 173-193. Bristol: Multilingual Matters. <https://doi.org/10.21832/9781788922616-014>